

2018年4月3日

各位

大阪信用金庫
理事長 高井 嘉津義

定例調査：第175回 景気動向調査（1～3月期）

☆景気の先行きに 春の芽生え・・・売上DI+2.5 収益DI△1.0

☆設備投資が景気を牽引・・・「実施中・予定あり」20.6%

☆経営課題「売上」から「仕入」に・・・問題点「仕入単価の上昇」45.1%

☆景気回復、賃上げにもフォローの風・・・4社に1社 実施予定

●景気の先行きに 春の芽生え 売上DI+2.5 収益DI△1.0

総合では、売上DIが+2.5(前回比△1.4ポイント)、収益DIが△1.0(前回比△2.8ポイント)となりました。ともに下落しましたが、業種間において大きな開きがあります。

飲食業では売上DIが大きく下落しており、厳しい寒さで客足が鈍ったことが影響していると思われます。運輸業、建設業は引き続き好調で、小売業も改善傾向にあります。

4-6月期の見通しは、総合で売上DIが5.5ポイント、収益DIが4.1ポイントとともに上昇し、全ての業種で上向くと予想していますので、売上DI、収益DIの低下は一時的であると思われます。

●設備投資が景気を牽引 「実施中・予定あり」20.6%

設備投資は、総合では「実施中」8.9%(前回比△0.2ポイント)、「予定あり」11.7%(前回比+1.6ポイント)で合計20.6%となり、景気を牽引しています。

業種別では、製造業が連続して増加しています。業況が堅調に推移し、設備投資を実施または実施予定の企業が増加しています。「ものづくり補助金」の募集開始に伴い、さらに設備投資に前向きな製造業が増えることが予想されます。

●経営課題「売上」から「仕入」に 問題点「仕入単価の上昇」45.1%

経営上の問題点は、総合では「仕入単価の上昇」が45.1%(前回比+1.0ポイント)、「売上受注の停滞減少」が43.8%となり、2008年9月のリーマン・ショック後初めて、「仕入単価の上昇」が第1位となりました。

業種別では、製造業、卸売業、飲食業で「仕入単価の上昇」が特に多くなっています。石油や鉄鋼などの原材料や野菜などの生鮮品の高騰が影響していると思われます。

●景気回復、賃上げにもフォローの風 4社に1社 実施予定

賃上げの実施予定については、「実施予定」が26.6%(前年比+3.0ポイント)となり、2007年3月の調査開始以降、実施率の最高を更新し、4社に1社が賃上げ予定です。

業況好調な製造業や正社員の比率が高い卸売業では「実施予定」が30%を超えました。人手不足が深刻な建設業、サービス業、運輸業においても25%を上回っています。

賞与だけでなく、給与水準の向上に本格的に取り組む企業が徐々に増加しています。

調査時点：2018年3月上旬

対象期間：2018年1～3月(実績) 2018年4～6月期(見通し)

対象企業：当金庫お取引先1,791社(大阪府内、尼崎市)

回答企業数：1,501社(回答率83.8%)

調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所(担当：福井)

TEL:(06)6211-2921 FAX:(06)6211-2930

E-mail:souken@osaka-shinkin.co.jp URL:http://www.osaka-shinkin.co.jp

この街のホームドクター



大阪信用金庫